

<特集>環境中に放出されたプラスチックごみの現状と課題

信州プラスチックスマート運動について

長野県環境部資源循環推進課

1. はじめに

昨今、海洋プラスチック問題が世界的な課題となっています。

経済協力開発機構（OECD）の発表によると、世界のプラスチックごみ発生量は2015年には3億200万トンと推定され、1980年の約5,000万トンから35年間でその約6倍にもなるといわれています。

プラスチックは手軽で耐久性に富み、安価で加工がしやすい大変便利なものです。幅広く使用されている一方、その多くは使い捨てにされ、環境中に出たものは川を通じて海に流れ出ていきます。

プラスチックは、自然界では分解されません。海に流れ出たプラスチックは、海洋生物による誤食ほか、波の力や紫外線等により細かく砕かれ5mm以下となったマイクロプラスチックによる生態系への影響も懸念されています。

「海洋ごみの7割は『川』から」※流れてくるといったデータもあり、この問題は海のない長野県も決して他人ごとではありません。

※（公財）かながわ海岸美化財団「なぎさのごみハンドブック」より

15ptあき

2. 「信州プラスチックスマート運動」がスタート

長野県では海洋プラスチック問題に向き合うため、令和元年5月、上流県の責務として生活スタイルの見直しからプラスチックと賢く付き合う「信州プラスチックスマート運動」をスタートしました。



信州プラスチックスマート運動ポスター

3. 運動の内容

県民の皆様へ以下の「3つの意識した行動」を呼びかけています。

- * 意識して『選択』
そのストロー、レジ袋は本当に必要ですか？
不要なら断りましょう。
- * 少しずつ『転換』
使い捨てプラスチックから代替品へ
(レジ袋をマイバッグに、など)
- * 分別して『回収』
必要なプラスチックは使ってもいいんです。でも使い終わったら、市町村のルールに従い分けて回収へ

4. 河川一斉清掃「クリーン信州 for ザ・ブルー」

「信州プラスチックスマート運動」の一環として、県では令和元年5月26日（日）に県内10か所でボランティア参加による河川一斉清掃を実施しました。

参加者数は計385人。

1時間ほどの清掃で回収されたごみは13,000㎏で、うちプラスチック類は約64%を占めました。



長野地域（千曲川）における河川一斉清掃

5. 「信州プラスチックスマート運動協力事業者の募集」

県内事業者・団体等の皆様には、「信州プラスチックスマート運動協力事業者」の登録をお願いしています。

登録できる取組内容は、以下のとおりです。

- プラスチックごみの排出量を削減する取組
例：レジ袋の削減（有料化，薄肉化，声かけ等），
使用済みプラスチックの回収，代替品の使用，
プラスチックの再利用（リユース）など
- 使用済みプラスチックの再資源化
（使用済みプラから製品を製造等）
- プラスチック代替製品等の製造・開発・研究
- 上流県における海洋プラスチック対策
（河川清掃等の実施）
- 上記以外（環境教育，講演会の実施等）

登録された皆様には、認定証とステッカー（店舗掲示用）をお送りしています。



また、長野県ごみ減量情報サイト「信州ごみげんねっと」で、登録事業者様の情報を紹介しています。

信州ごみげんねっと

令和元年10月末時点の協力事業者数は43事業者301店舗となっています。



協力店ステッカー

6. おわりに

長野県は、一人一日当たりの一般廃棄物排出量が4年連続（平成26年から平成29年まで）全国で一番少ない県です。

ごみ減量日本一の継続と環境にやさしい長野県を目指し、引き続き「信州プラスチックスマート運動」を推進していきます。